

Complex, stair-shaped building



Composition

ボリュームをレベル差ができるように重ね、重なり部分を壁や空隙に、重ならない部分を水平窓にする。
重なり部分は素材を変え、異なる素材に隣人の存在を感じる。通常、住戸の空間は間仕切りで分けられるが、レベル差で緩やかに空間を仕切る。



閉じた空間

重なりが多い閉じた空間は、寝室として。
空間を囲う天井付近の窓からわずかな光が入る。



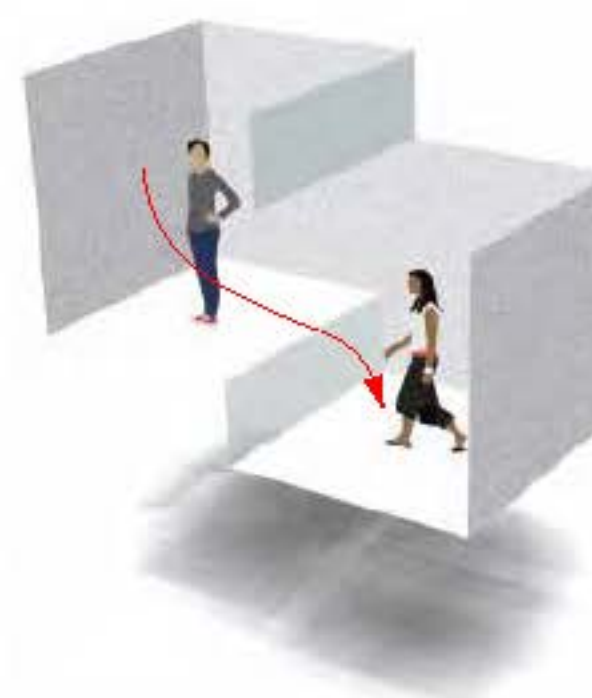
開けた空間

重なりの少ない開けた空間はリビングとして。
下階はやや閉じたりリビングとして使用できる。

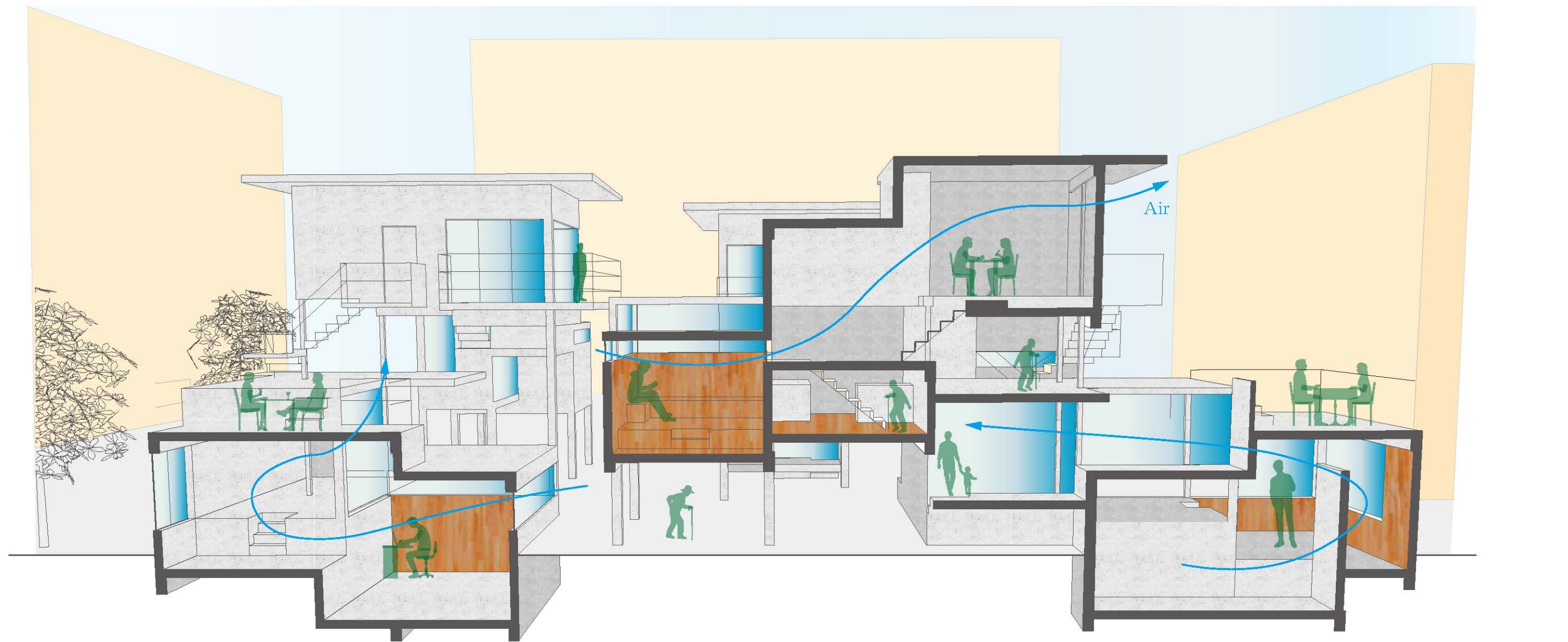
Privacy



空間の用途はprivacy度合いにより決まる。
都市の広場から街路、玄関、リビング、寝室への流れをプライバシーの度合い
による一連の流れだと考え、「上下の移動」と「視覚における外へ開かれた程度」
によって空間を構成する。



Section

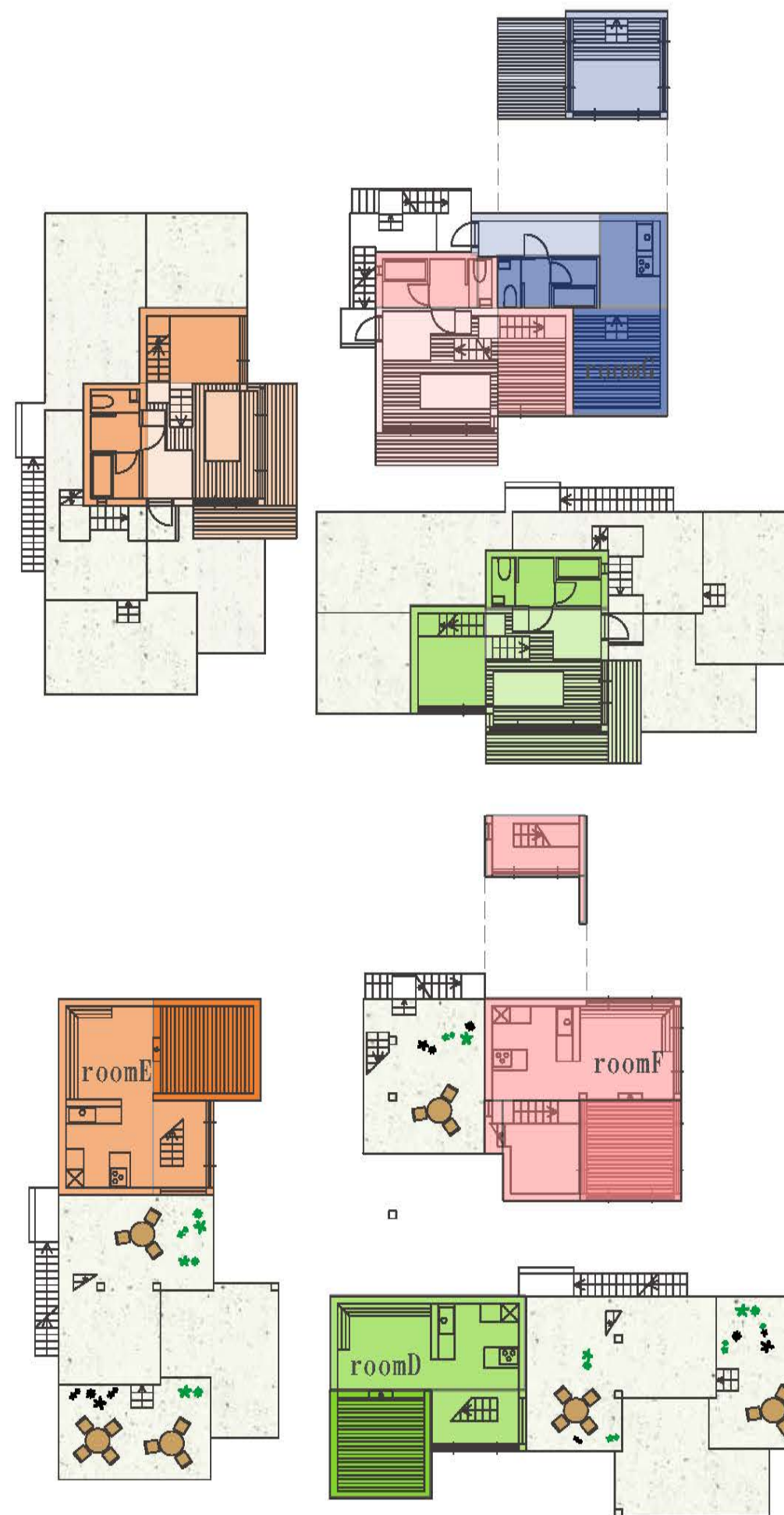


玄関から個室まで、Stepを降りていく構成。
上下の移動による身体的な運動は、実際よりも室内を広く感じさせる。
壁が低く大きい窓の空間から、壁が高く小さい窓の空間への縦の移動で、
無意識に水平窓からの光を意識し、視覚的に空間を感じる。
また、上下の構成により窓を開ければ自然に風が抜け、料理などの匂いを運ぶ。



Plan

色の濃淡は、プライバシー度合いを表す。



7戸の住戸を大きな3つのボリュームに分ける。
それら3つの隙間はプライバシー度合いの低い広
場空間となる。



1F revel 1/200

都心部では、土地を無視して高層に建てられた住まいが多く、特に角地では高層な場合が多い。
角地において、高層化せずに土地や隣人との距離感を感じながら住もう。